

- 6 . 研究者アンケート結果

1 . アンケートの方法と内容

科学技術振興事業団の代表的な基礎的研究事業である ERATO（創造科学技術推進事業）、CREST（戦略的基礎研究推進事業）、PRESTO（若手個人研究推進事業）において過去に研究を行った終了研究者に対し、（1）自己以外の研究課題・研究者に関するアンケート、および（2）自己の研究に関するアンケート、を依頼した。

なお、アンケートは平成 15 年 3 月 24 日から 4 月 7 日にかけて実施した。

（ ）自己以外の研究課題・研究者に関するアンケート(1) - ERATO、CREST

上記の終了研究者に対して、ERATO、CREST の終了課題リスト（総数 211 課題）を提示、質問項目 1～4 の 4 項目について該当する研究者に 印を付すという方法でアンケートを行い、186 名の終了研究者から回答を得た。

項目 1	この研究グループは新たな科学・技術分野を切り拓いたと見受けられる。
項目 2	世界トップクラスの研究者・研究グループであると見受けられる。
項目 3	この研究グループの成果から波及して、新たな産業分野が現在までに成長している。
項目 4	この研究グループの成果から波及して、産業分野形成以外の大きな社会還元（医療の進歩、社会問題解決への貢献等）が現在までに派生している。

（ ）自己以外の研究課題・研究者に関するアンケート(2) - さきがけ研究(PRESTO)

終了研究者に対して、さきがけ研究（PRESTO）の終了課題リスト（総数 322 課題）を提示、質問項目 1～3 の 3 項目について該当する研究者に 印を付すという方法でアンケートを行い、155 名の終了研究者から回答を得た。

項目 1	さきがけ研究（PRESTO）”を通じて、非常にチャレンジングで積極的な研究をしたと見受けられる。
項目 2	研究上や、キャリアの上などで、“さきがけ研究（PRESTO）”に採択されたことが大きな支援になったと見受けられる。
項目 3	現在、この研究者が属する分野の若手のリーダーの一人であると言える。

（ ）自己の研究に関するアンケート

以下の 3 区分、全 6 項目の設問に対して、上記終了研究者 241 名から回答を得た。

区分 1	自己の研究課題の研究成果・効果について。
区分 2	JST プログラムの役割について。

2 . 他の研究者からのアンケート結果のまとめ(1) - ERATO、CREST

まず、ERATO(創造科学技術推進事業)、CREST(戦略的基礎研究推進事業)、PRESTO(若手個人研究推進事業)の研究者で既に研究期間が終了している186名の研究者に対してERATO、CRESTの終了課題リストを提示し、以下にまとめる各項目に該当すると回答のあった研究者名を集計した。

項目 1 「この研究グループは新たな科学・技術分野を切り拓いたと見受けられる。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

下表の通り、CREST では 72%、ERATO では 83%の研究者が、新たな分野を切り拓いたと複数の他の研究者から目されていることを示しており、これら制度が新分野の開拓に大いに貢献していることが確認される。

	リスト掲載の研究者数	2名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数(割合)
CREST	158	113 (72%)
ERATO	53	44 (83%)
合計	211	157 (74%)

() 本項目に関し特に優れた研究者

20名以上の他の研究者から選択を受けた研究者も、CREST 7名、ERATO 5名の計12名おり、これら研究者は特に切り拓いた分野における第一人者と考えられる。

項目 2 「世界トップクラスの研究者・研究グループであると見受けられる。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

下表の通り、CREST では 64%、ERATO では 74%の研究者が、複数の他の研究者から世界トップクラスと認められている。

	リスト掲載の研究者数	2名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数(割合)
CREST	158	101 (64%)
ERATO	53	39 (74%)
合計	211	140 (66%)

() 本項目に関し特に優れた研究者

20名以上の研究者から世界トップクラスとされた研究者は、CREST 5名、ERATO 6名の計11名おり、これらの研究者は分野を越えて幅広い領域の研究者コミュニティからその実力・成果を認められているものと思われる。

項目3 「この研究グループの成果から波及して、新たな産業分野が現在までに成長している。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

下表の通り、CREST では 12%、ERATO では 45%が該当者として複数の他の研究者から選択されていた。前項の質問よりも割合としては低いですが、少なからず産業界にも波及効果を及ぼしていることが伺える。また、1981 年発足と歴史の長い ERATO が、CREST よりもずっと高い比率であり、研究期間から相応の時間を経て産業界への波及効果がもたらされる場合が多いことが推定される。

	リスト掲載の研究者数	2名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数(割合)
CREST	158	19 (12%)
ERATO	53	24 (45%)
合計	211	43 (20%)

() 本項目に関し特に優れた研究者

5名以上の他の研究者から選択された研究者は、CREST 3名、ERATO 9名の計12名であった。

項目4 「この研究グループの成果から波及して、産業分野形成以外の大きな社会還元(医療の進歩、社会問題解決への貢献等)が現在までに派生している。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

本設問に対しては、CREST では 12%、ERATO では 26%がいずれかの研究者によって選択されており、社会に対してもインパクトのある研究が行われている例があることを示している。

	リスト掲載の研究者数	2名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数(割合)
CREST	158	19 (12%)
ERATO	53	14 (26%)
合計	211	33 (16%)

() 本項目に関し特に優れた研究者

3名以上の他の研究者から選択された研究者は、CERST 4名、ERATO 5名の計9名であった。

3. 他の研究者からのアンケート結果まとめ(2) - さきがけ研究 (PRESTO)

2. と同様に、PRESTO (若手個人研究推進事業) の研究者で既に研究期間が終了している研究者のリストを提示し、以下にまとめる各項目に該当すると回答のあった研究者名を集計した。なお、回答者総数は 155 名である。

項目 1 「“さきがけ研究 (PRESTO)”を通じて、非常にチャレンジングで積極的な研究をしたと見受けられる。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

下記の通り、2/3 近い研究者が自身以外の複数の研究者に本項目該当者として選択を受けており、研究アクティビティの面ではその積極性を認められていると言える。

リスト掲載の研究者数	2 名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数 (割合)
322	202 (63%)

() 特に注目された研究者

15 名以上の他の研究者から本項目該当として選択された、特に注目度の高い研究者は 5 名であった。

項目 2 「研究上や、キャリアの上などで、“さきがけ研究 (PRESTO)”に採択されたことが大きな支援になったと見受けられる。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

本項目についても、下記の通り 1/2 以上の研究者が自身以外の複数の研究者に本項目該当者として選択を受けており、本制度が若手研究者のキャリアアップの大きく貢献していることが伺われる。

リスト掲載の研究者数	2 名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数 (割合)
322	170 (53%)

() 特に注目された研究者

10 名以上の他の研究者から本項目該当として選択された研究者は、11 名であった。

項目3 「現在、この研究者が属する分野の若手のリーダーの一人であると言える。」

() 複数の他の研究者から、本項目該当とされた研究者

本項目については、40%の研究者が自身以外の複数の研究者から本項目該当者として選択を受けており、本制度による研究を終えた後、各々の研究者が各分野において主導的な立場に立って研究を推進していることが現れている。

リスト掲載の研究者数	2名以上の他の研究者から、本項目該当と選択された研究者数(割合)
322	128 (40%)

() 特に注目された研究者

本項目について、12名以上の研究者から選択を受けた特に注目される研究者は、10名であった。

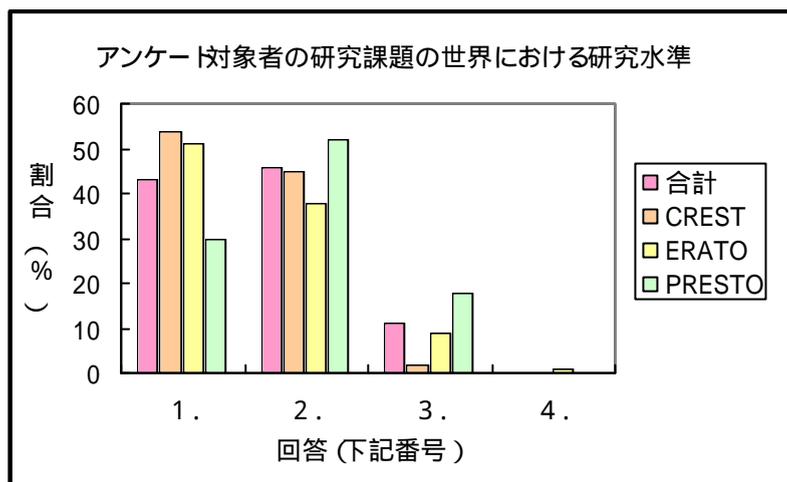
(以上)

4 . 自己の研究に関するアンケート各項目の結果

以下は、科学技術振興事業団の代表的な基礎研究推進事業（ERATO、CREST、PRESTO）において研究期間が終了した研究者に対し、自己評価のアンケートを依頼し、その結果をまとめたものである。（回答者数 ERATO 68名、CREST 65名、PRESTO 108名 計 241名）

.研究課題の研究成果・効果について

質問 1 自己の研究課題の世界における研究水準について
(研究期間終了時点)

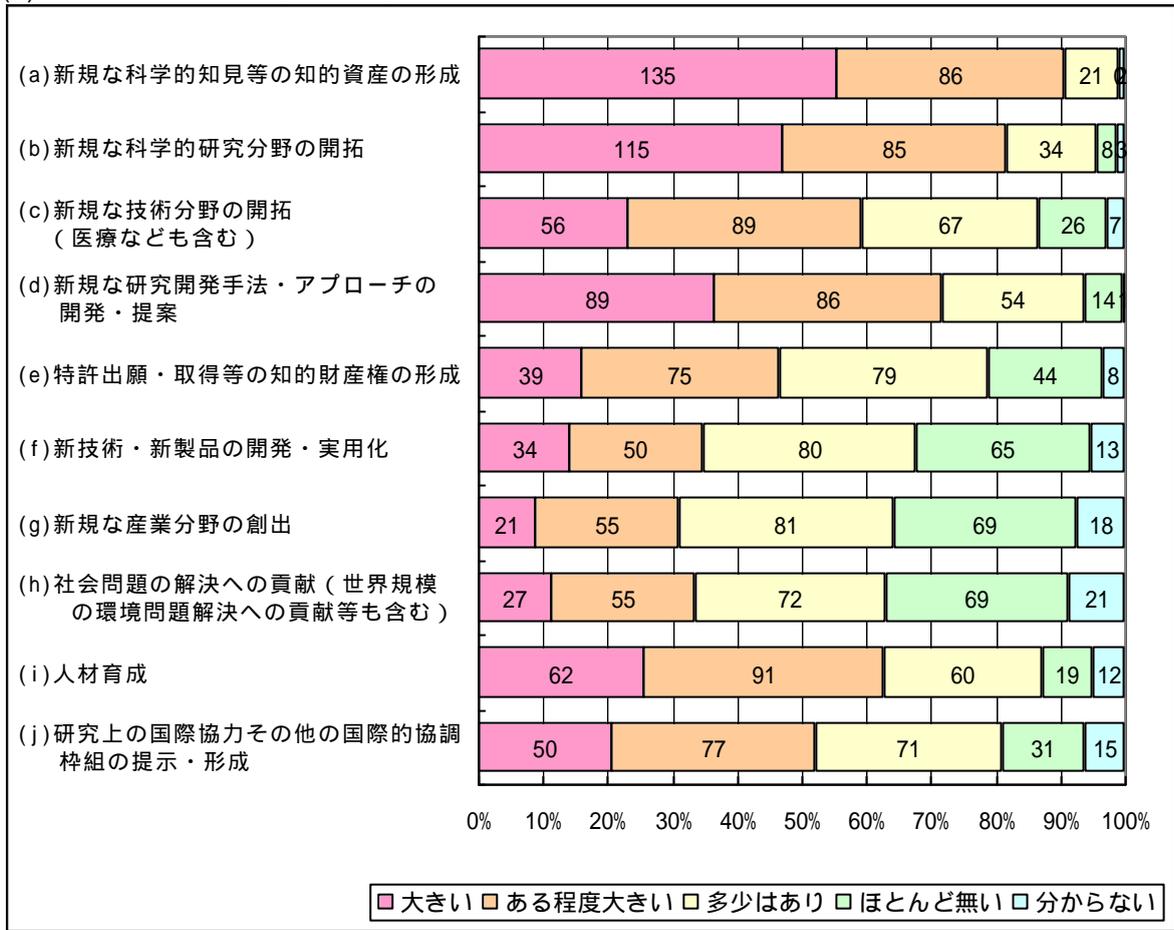


1. 世界のトップ10以内程度の水準、あるいは他に類を見ない価値ある研究である
2. 1.ほどではないが、世界をリードするような水準である
3. 世界における標準的水準である
4. 世界における水準より低い

上記表の通り、いずれのプログラムにおいても、8割以上の研究者が自己の研究課題における研究は、世界をリードする水準である(回答番号1.または2.)と回答している。

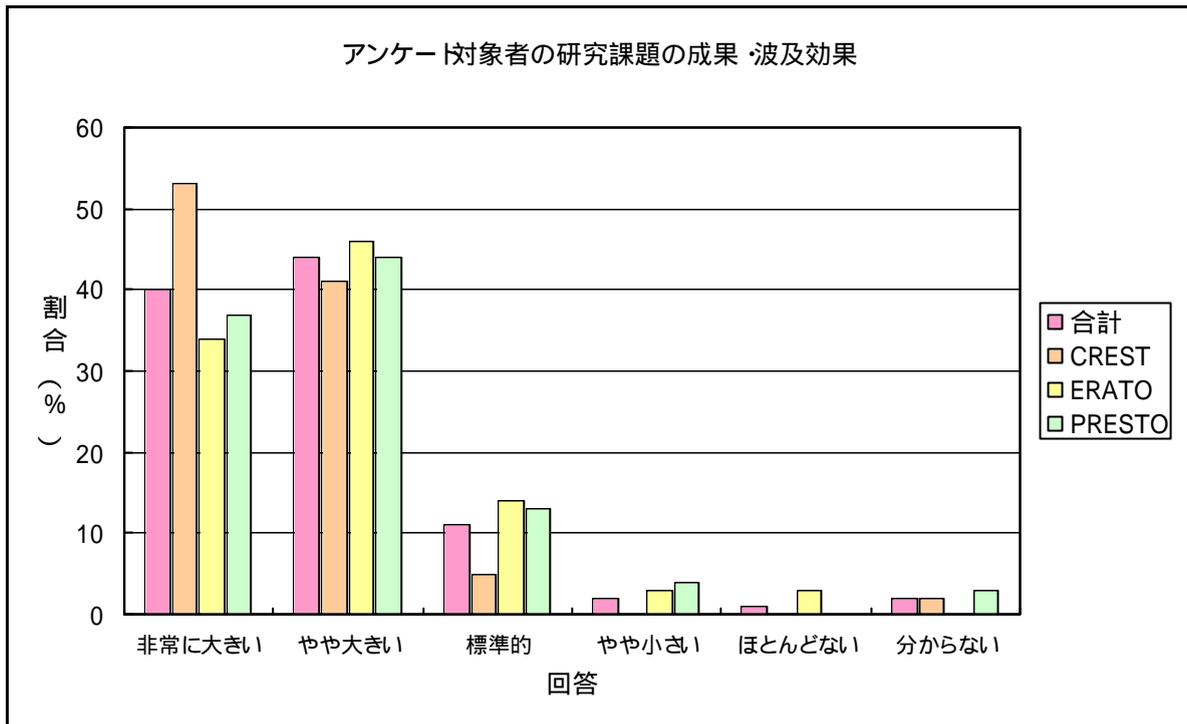
質問2 本研究課題の成果・波及効果について (将来の見込みを含む)

(1) 成果および波及効果の程度



(a)、(b)、(d)など新規な知見、分野、研究開発手法などの開拓・提案についてはいずれも7割以上の研究者が「大きい」または「ある程度大きい」と回答していることに加え、人材育成についての評価((i))も高いことが注目される。

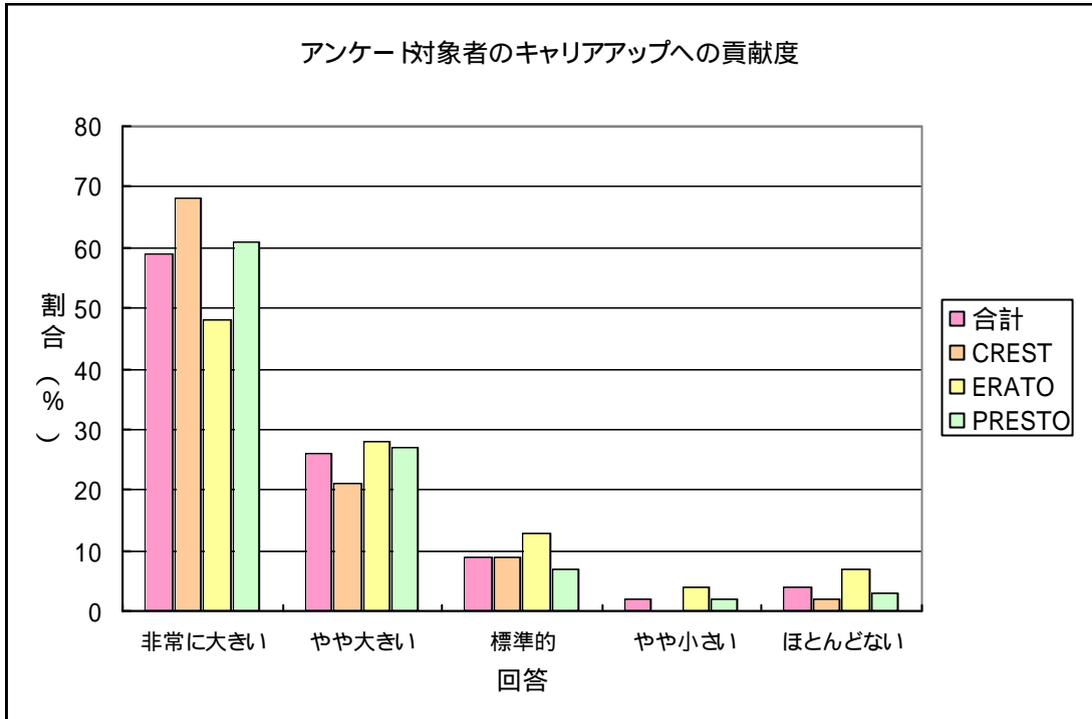
(2)自己の研究課題の成果・波及効果



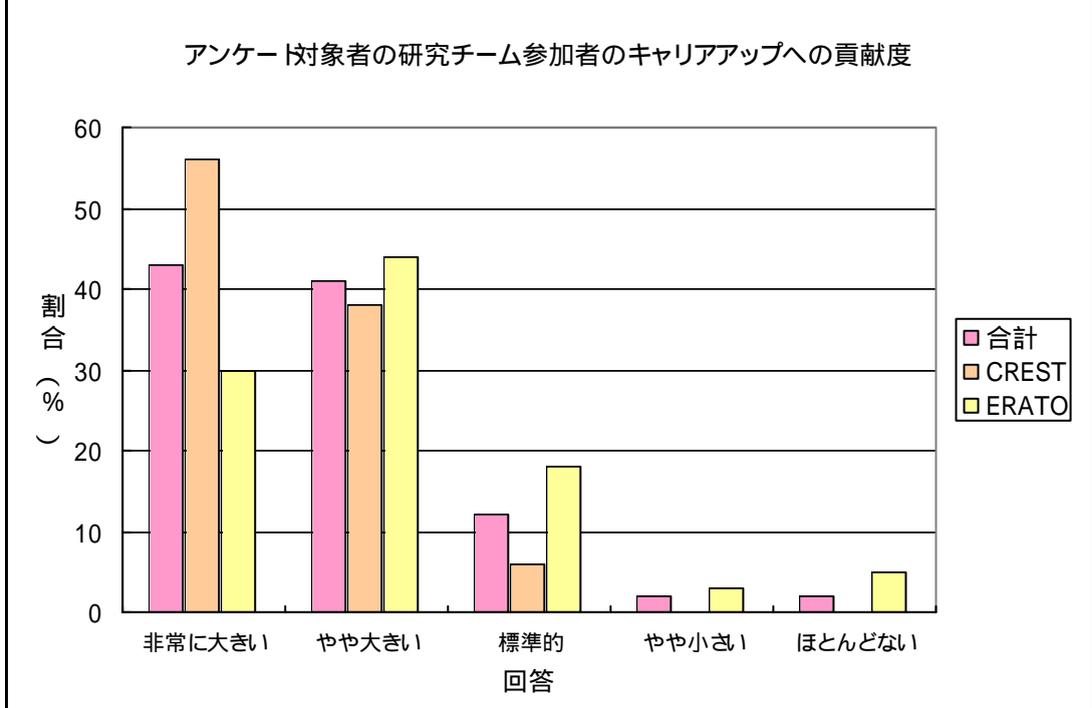
自己の研究課題の成果・波及効果については、いずれのプログラムにおいても8割以上の研究者が「大きい」（「非常に大きい」または「やや大きい」）と回答している。

質問3 自己の研究課題の、キャリアアップへの貢献（自身のステップアップや、参加研究者が当該研究課題を経験した後に世界水準の研究者に成長するなど）について

(1)自身について



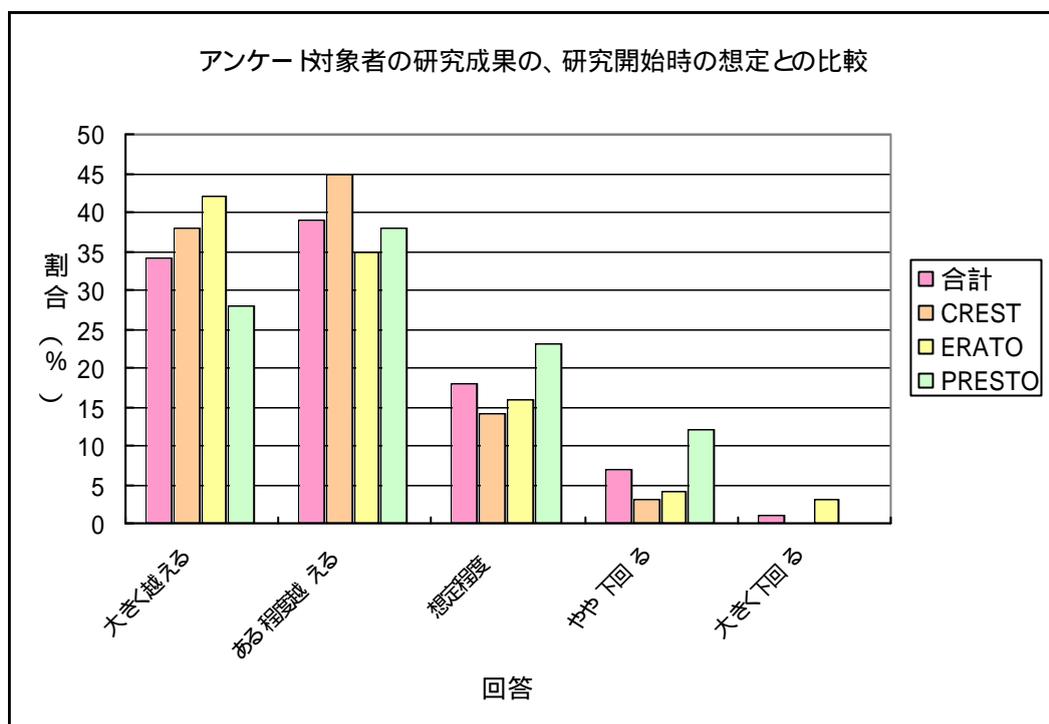
(2)自身以外の参加研究者について



キャリアアップへの貢献についても7割以上の研究者が、研究者本人または参加研究者ともに「大きい」（非常に大きいまたは「やや大きい」）と回答している。

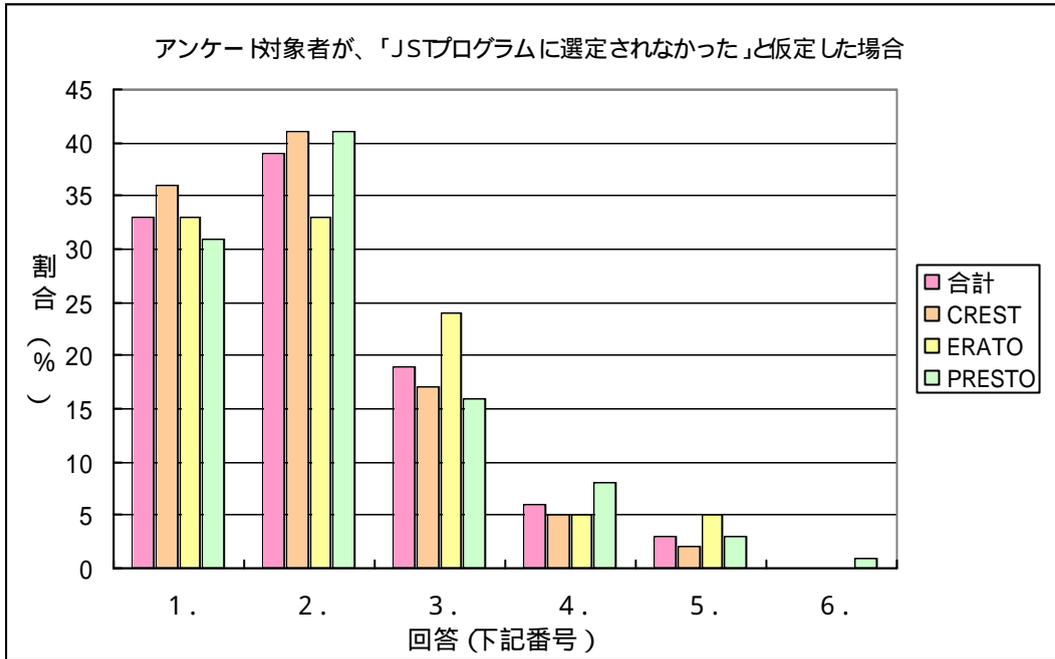
.JSTプログラムの役割について

質問4 自己の研究課題の研究成果・効果は、全体として、研究開始時の自身の想定に比してどうであったか。



CREST、ERATO、PRESTOについてそれぞれ83%、77%、64%の研究者が「想定を超える成果が挙げた」（「大きく超える」または「ある程度超える」）と回答しており、概ね自身の期待以上の成果を挙げていると自己評価しているが、少数ながら下回るとの厳しい自己評価を行っている研究者も存在する。

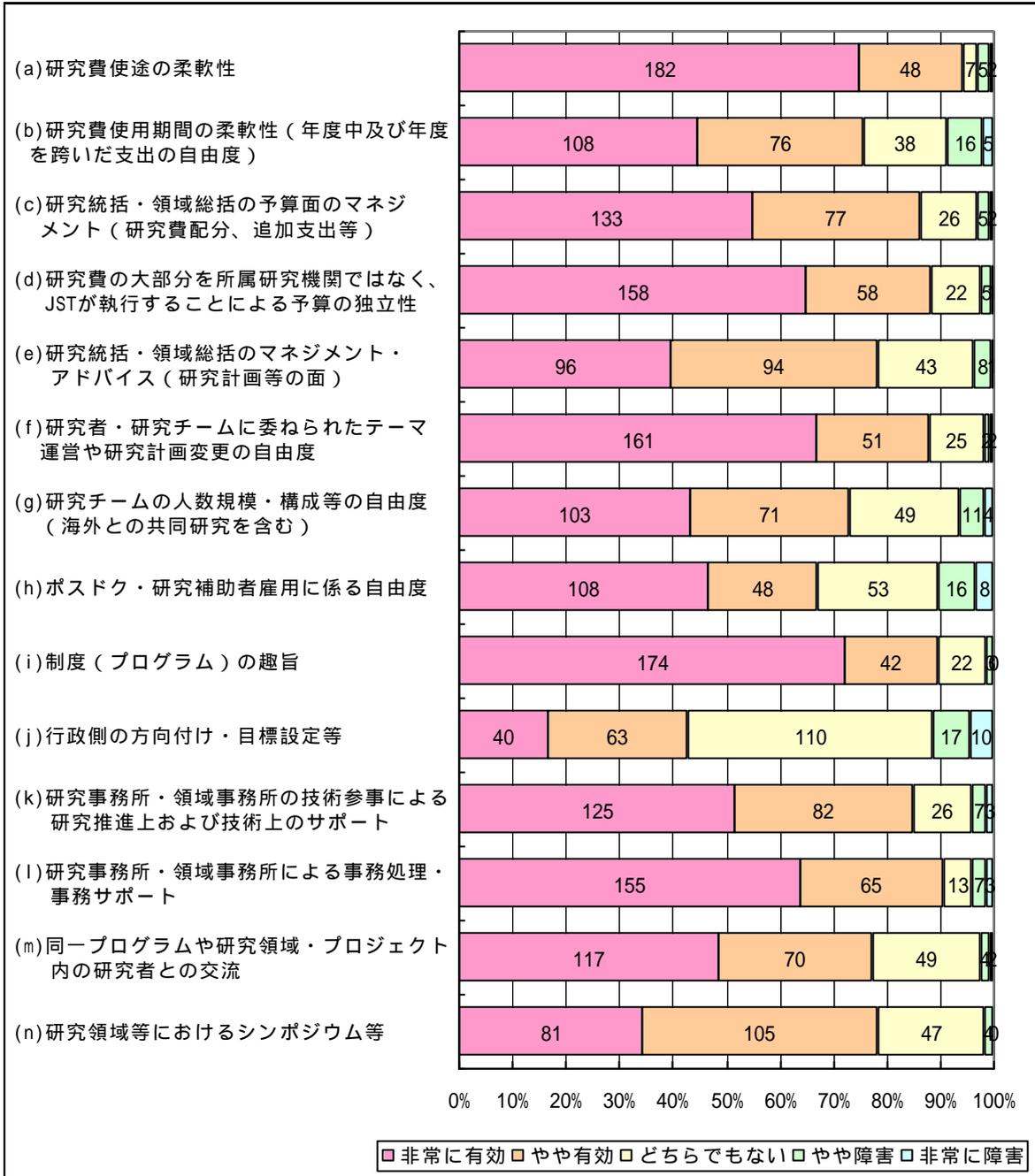
質問 5 質問 4」にて 1. ~ 3. のいずれかに回答した研究者に対する質問。
 自己の研究課題の研究成果 効果は、「JSTのプログラムに選定されなかった」と
 仮定した場合、どの程度実現したと考えるか。



1. 実現が全く不可能であった。
2. 実現が大きく遅れ、かつ成果の範囲や水準が大きく下がった。
3. 実現が大きく遅れた。
4. 成果の範囲や水準が大きく下がった。
5. 実現が多少遅れたり、成果の水準 範囲が多少下がった可能性があるものの、概ね実現できた。
6. 研究成果 効果の実現について、支障は無かった。

いずれのプログラムにおいても、90%を超える研究者が「実現不可能か大きく遅れた」または「水準が大きく下がった」と回答 (回答番号 1. ~ 4.) している。また、いずれも 30% を超える研究者が「実現が全く不可能であった」(回答番号 1.) と回答している。

質問6 自己の研究課題の研究成果・効果の実現に対する、JSTプログラムの下記の要素の効用・貢献の程度。
 (障害となった要素についても回答。また、研究成果・効果が当初の想定を下回った研究者も回答。)



(a)、(d)、(f)など、研究費の柔軟性を評価する声が多いほか、(k)、(l)などJSTの支援体制を有効とする意見が多い。